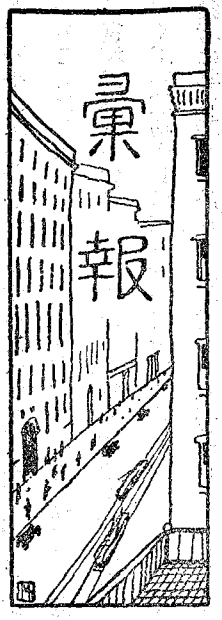

◎理事會開會

舊臘二十四日、午後五時から丸の內日本倶樂部に於て本會理事會を開いた、東北に於ける道路改良講演會の狀況報告と、水野會長大臣待遇の祝賀會と忘年會とを兼ねた理事會である、會する者水野會長內田副會長を始め山田、松本、中川、佐上、牧、筧、前川、廣瀨、物部の各理事と幹事が全部出席した。

東北講演に出張した松本中川牧の三理事から各擔當した講演の狀況と各地に於ける道路改良の趨勢を述べ、殊に松本中川兩理事は地方道路の改良に依つて鐵道を敷設する計畫を變更する必要あることを力說され、之に就ては詳細な調査を遂げた上適當の意見を樹てゝ本會から聲明することに決定した、牧理事は技術上の見地から、地方技術官がまだ自動車交通を標準とした道路の築造技術を研究することに缺けてゐる點を擧げて、是等技術官指導の方法を講ずる必要あることを提議したが、夫れは經費を伴ふ大問題であるから後日の研究に讓ることゝ爲つた。

水野會長は新に本會幹事と爲つた、內務事務官大村淸一君と警視廳交通課長藤岡長敏君を一同に紹介し、此後の努力を希望し夫れから食卓について、山田理事は一同を代表して水野會長の大臣待遇と爲られたことを祝福し、例の優詔問題も氏の自重に依つて自然に明白と爲つたことを喜び、氏の健康を祈つて將來の發展を望で一同乾杯し、和氣藹々裡に散會したのは午後九時であつた。

◎藤岡幹事の外遊

本會の幹事である警視廳交通課長藤岡長敏君は、今回歐米各國へ出張を命ぜられ二月一日橫濱出發の天洋丸で渡歐

さるゝことゝ爲つた、氏は本誌に於て屢紹介したやうに警視廳に在つて帝都の警察的交通問題を雙肩に擔ふて奮鬪された人、殊に御大典當時に於ては狹隘な場所に集中した萬餘の自動車を整理するなぞ其の勞苦は一通りでなかつた。上司も其の勞苦を犒う爲に海外に出張せしめたものであらう、當然のことゝは言へ氏の前途の爲に祝福すべきである。

氏は在廳中に於て歐米に於ける先覺の交通整理に關する著述を讀破し澤山な飜譯物を出してゐる、今回の旅行に於て是等先輩に會見して一層學と術とに就て研究し得るところがあらう、殊に實情を直感することに依つて、氏に何等かのヒントを與へるであらう、兎に角氏の洋行は我國路上交通整理の學術の爲に多大の貢獻を齎すことを期して疑はない、長い旅である健康を第一に早く歸朝されむことを祈つて已まない。

◎評議員比田孝一氏の長逝

曾て本會の理事として活動された評議員比田孝一氏は、這般病氣に罹られ專ら療養中であつたが、腦溢血病を併發して一月十一日逝去された。

氏は明治元年生れで、當年六十二歳、明治二十六年帝大工科を卒業して內務省土木監督署に入り、二十九年同署技師と爲り愛知縣技師、統監府技師、宮城縣技師を經て同四十四年內務技師と爲られ居ること十四年、大正十三年退官して閑地に靜養されつゝ在つたのである。

氏と本會とは淺からぬ因緣があつて、本會創立早々實行した例の東海道自動車旅行の節は例の元氣で自ら進んで同行され、各地で其の氣焰を擧げられ逸話も隨分澤山に殘されてゐる、其の後現在の內務省地方局長佐上信一氏等と歐米各國に旅行し、以前は河川技術專門の技術官であつたが、特に道路技術に趣味を持せらるゝやうに爲つて、遂に道路通と爲られ本會理事を煩すやうに爲つたのである。理事就任後は足部の疾患があるにも拘はらず常に本會の爲に盡瘁され、各地の講演會には萬難を排して出講さるゝ等、本會としては氏に感謝する多大のものがある。長逝の報に接す

るや幹事田中好をして弔詞を靈前に呈し生花を贈つて弔意を表した。

◎德島縣吉野川橋竣功式

國道二十一號線吉野川橋は昭和三年十二月十八日の吉辰を卜して目出度竣功の式典を擧行した。曩に工を起してより三年二ケ月延長三五三一尺道路橋としては將に東洋第一の長橋である。此の日夜來の强風名殘なく靜まつて軟らかい西風が紺碧の水の面を吹き渡つてゐる。見渡せば新裝竣れる吉野川橋は十六基の橋脚を緊かとふまえ洋々たる水面を横切つて、長蛇の如く走つてゐる。

開通の祭典は定刻同橋南畔の式場に於て神官修祓の儀を以つて嚴に初められた。渡り初めは自動車を用ひて行はれたが、これ一の新例を開いたものであつて、本橋の如何に長きかを想像せしめ得べき事實である。知事式辭、內務大臣祝辭は左の如くであつた。

式辭

吉野川橋架設工ヲ竣ヘ玆ニ本日ヲトシテ開通式ヲ擧行スルニ方リ內務大臣閣下初メ多數貴紳ノ來臨ヲ辱フスルヲ得タルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ

抑々吉野川ハ其ノ源ヲ層巒重疊ノ四國山脈ニ發シ本縣下東西ヲ貫流スル四國第一ノ大河川タリ之ガ改修ノ根幹既ニ成リ以テ沿岸地方其恩澤ヲ受クルニ至リタルハ俱ニ慶賀措ク能ハザル所ナリ然ルニ之ガ下流河口ヲ横斷スル國道二十一號線ハ德島市ノ咽喉ヲ扼シテ交通上最モ重要ナル地位ヲ占ムルニ拘ラズ從來未ダ橋梁ノ架設ヲ見ズ纜ニ渡船又ハ假橋ニ依リ其ノ連絡ヲ維持セルガ如キ時世ノ進歩ニ伴ハズ依然トシテ舊態ヲ改メザリシコト久シク而カモ一朝出水ニ際會セムカ兩岸ノ連絡忽チ絶エ不利不便ヲ蒙ルコト實ニ名狀スベカラズ是ニ於テ本橋ノ施設ハ一般縣民ノ多年要望スル所ナリシモ工費ノ巨額ナルニ容易ニ其ノ宿望ヲ達スル能ハズ常ニ以テ一大恨事トセリ

曩ニ縣下樞要地點ヲ選定シ所謂十一大橋梁架設ノ計畫ヲ樹ツルニ當リ本橋亦其ノ一ニ加ハリ大正九年縣會ノ協賛決議ヲ經國庫ヨリ九十五萬圓ノ補助ヲ得テ總工費百四十餘萬圓ヲ投ジ大正十四年十一月工ヲ起シ爾來拮据經營事業豫定ノ如ク進捗シ三年二ケ月ノ歲月ヲ經過シ今ヤ全ク其ノ落成ヲ告ゲ

本橋ハ其ノ交通上ノ地位ニ鑑ミ設計等ニ考慮ヲ拂ヒ專ラ實質ノ

堅牢ヲ主旨トセルモ結構ノ外觀亦他ニ比シ遜色ナキノミナラズ其延長實ニ三千五百十一尺ニ及ビ未ダ全國ニ其ノ例ヲ見ズ之ガ開通ニ依リ得ル利益甚大ニシテ關係地方ノ發展期シテ俟ツベク蓋シ交通上一新紀元ヲ劃スルモノト曰ハザルベカラズ橋上ヨリ仰ギテ眉山ヲ望ミ俯シテ脚下ニ洋々タル紺碧ノ流ヲ見ル惟フニ本橋ハ名橋トシテ永遠ニ當地方ノ誇タラン冀クバ本日ヲ機トシテ協力一致本橋ノ利用厚生ノ實ヲ擧ゲ以テ本縣福祉ノ增進ニ寄與セラレムコトヲ一言ヲ叙シテ式辭トス

昭和三年十二月十八日

徳島縣知事正五位勳四等　山下謙一

祝辭

國道二十一號線吉野川橋改築工ヲ竣ヘ本日茲ニ開通ノ式ヲ擧ゲラル

抑々國道二十一號線ハ二十二號國道ト相俟ツテ四國東北部ニ於ケル重要道路ニ屬シ徳島高松ノ兩市ヲ連絡スル唯一ノ陸上交通機關タルニ拘ラズ吉野川ノ横過スル所ハ從來纔ニ假橋ニヨリテ連絡ヲ保テルニ過ギズ而カモ出水時ニ際シテハ屢々交通不能ニ陷リ堅牢ナル橋梁架設ノ必要實ニ切ナルモノアリキ今乃チ官民ノ協力ト政府ノ助成トニ依リ茲ニ堅牢完備ノ架橋功ナルヲ見ル寔ニ欣慶ニ堪ヘザルナリ

念フニ本橋ノ完成ハ本國道ノ効果ヲ益々發揚セシメ四國ニ於ケル交通産業其ノ他ニ及ボス効果著シキモノアルヲ疑ハズ冀クバ今後之ガ維持管理ニ努メ以テ長ニ其ノ利ヲ收メラレムコトヲ一言所懷ヲ述ベテ祝辭トス

内務大臣　望月圭介

右の外西田縣會議長を始め多數參列者の熱誠なる祝辭があつた。年光縣土木課長の工事報告にも苦心の跡が伺はれる。多數の縣民は早朝から兩岸に雲集して徳島市外未曾有の盛觀を呈し本橋の架設が多年縣民の如何に待望せしところなるかを示すに充分である。協賛會長たる橋本徳島市長は、我々市民は不可能なる話頭に對しては常に吉野川に鐵の橋を架けてからとの一言を以つて報い其の架橋の難事たることを思ふと共に、他日必ず此の偉業を完成せしめんと誓つて居たのであつたと幼時の追懷を叙べた。眞に人の和と天の時と地の理と此の三つ全きを得て始めて偉業は完成せらるゝのである。私は初めての公的旅行に於て東洋第一を誇る吉野川橋竣功式に參列し得たことを終生の記念とすると共に、當局諸賢の努力經營に對し深甚なる敬意を表するものである。（瀧川生）